



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第3巻第1号) 編集後記・購読要項・投稿内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第3巻第1号) 編集後記・購読要項・投稿内規
. 泌尿器科紀要 1957, 3(1): 96-96

ISSUE DATE:

1957-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111391>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 3 卷 第 1 号

昭和 32 年 1 月

随想 泌尿器科医を決心するまで	重 松 俊	1
排尿時斜傾位連続レ線間接撮影法による排尿開始時の膀胱運動の研究	岡 直 友	3
第2報 排尿困難者の場合		
尿路結核に関する研究	多 田 茂	17
第Ⅱ篇 化学療法開始後の尿路結核の変貌		
泌尿器疾患に於ける Phosphatase の組織化学的研究	三 浦 武 芳	30
第Ⅰ篇 Phosphatase の組織化学に関する基礎的研究と文献的考察	三 浦 武 芳	30
腎臓結核の化学療法に関する実験的研究	藤 山 亮 市	35
尿石溶解の研究 (第5報)		
第Ⅰ篇 動物実験 第Ⅱ篇 臨床応用	森 幸 夫	49
泌尿器外傷に対する小統計	松 浦 省 三・関 太 助・大 塚 碩 哉	66
無尿を主訴とする漆灰腎の2例	三 浦 高 道 中 信 也・大 塚 邦 栄	73
尿石の化学的分析	稲 田 務・酒 中 德 治・三 郎 大 田 幸 雄	77
日 野 豪・杉 山 喜 一・片 村 永 樹・麻 生 田 幸 雄		
Depropanex の泌尿器科的応用, 特に尿管結石症に於ける looped catheter 法との併用について	稲 田 務・後 藤 永 樹	80
仁 平 寛 巳・酒 中 德 治・三 郎 大 田 幸 雄		
尿路感染症に対する20%イルガフェン注射液の治験例	稲 田 務・後 藤 永 樹・日 野 豪・ト 部 敏 人	86
尿路結核症殊に膀胱結核に対するネオ・イスコチンの使用	稲 田 務・多 田 茂・大 森 孝 郎・杉 山 喜 一・麻 生 田 幸 雄	89
学会抄録 第183回京都集談会		95
編集後記・購読要項・投稿内規		96

Serial Fluorographic Studies of the Bladder Movement in Micturition		
Second Report : In Dysuria	N. Oka	3
Studies of Urinary Tuberculosis		
Report III : Transition of the Clinical Aspect in the Urinary Tuberculosis after the Discovery of Streptomycin	S. Tada	17
Histochemical Studies on Phosphatase in Genito-Urinary Diseases		
Report 1 : The Fundamental Study and Literary Investigation	T. Miura	30
Experimental Studies on the Chemotherapy of Renal Tuberculosis	R. Kageyama	35
A Study on the Dissolution of Urinary Calculi		
5th Report	Y. Mori	49
Statistics of Urogenital Trauma	S. Matuura, T. Seki and S. Otsuka	66
2 Cases of Cement Kidney Complaining Anuria		
	T. Miura, N. Michinaka and K. Oshita	73
Chemical Analysis of Urinary Calculus	T. Inada, J. Sakatoku, E. Hachida, T. Hino, K. Sugiyama, E. Katamura and S. Asoda	77
Application of DEPROPANEX in the Urological Field, especially to the Looped Catheter Management of Ureteral Calculi		
	T. Inada, K. Goto, H. Nihira, J. Sakatoku and E. Katamura	80
Treatment of Urinary Tract Infection with 20% Irgafen		
	T. Inada, K. Goto, T. Hino and T. Urabe	86
Chemotherapy for Urinary Tuberculosis with NEO-ISCOTIN		
	T. Inada, S. Tada, T. Omori, K. Sugiyama and S. Asoda	89
Society Transaction		95

京都大学医学部泌尿器科教室

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Japan.

泌尿紀要

Acta Urol.

臨床止大きな応用価値を有し、注目せられねばならない。

7 膀胱三角部異常症の手術例 多田茂, 杉山喜一 (京大)

尿失禁を主訴とする高度の膀胱三角部異常症に, Sampson 氏法を用いて両側尿管移植術を試みて成功し

た症例に就て報告した。

8 Xylocain Jelly による尿道麻酔 小田完五, 大車勇二 (府大)

臨床皮泌10巻1号75頁参照。

追加 後藤廣 (京大) 泌尿紀要2巻1号 (昭和31年1月号) を参照。

編 集 後 記

秋には例年の如く西部, 東部, 中部と地方会が開かれ, いずれも盛会であつた事は御同慶の至りである。我々が関係した中部学会にては京大後藤助教授「泌尿器科X線検査に於ける最近の経験」, 三重大矢野教授「尿路結石に関する二, 三の問題」, 岐阜大近藤教授「男子性器結核の研究」, 名市大岡教授「水腎の機能回復について (臨床的考案)」の四つの特別講演が行われたがそのいずれもが直剣な努力を以て為されたる広く深い研究であり, 真に頭の下がる想いがした。研究と云うものは実にけわしい路であると共に尊いものである事を痛感した。地方会で然も四題も行つたのはもつたいない様であつたが, それだけこの学会の意義を重くしたものであつた。講演者各位に深く感謝する。その他各地からの一般演説も夫々感銘深いものであつた。尚米国留学中の宮崎重君の御世話にて借りた学術映画とバイエル社の映画も会員を裨益する所が大きかつた。懇親会も盛大であり, 凡ての点に於て本学会を有意義に終了出来た事は全く諸方面のおかげである。次回は大阪市大が引受けられ, 次々回は京都府大と決定した。



若し世界中が軍備を全く止めてその費用を学問の研究や人間の幸福のために使うならばいかに美しい世界となるであろうか。今回の南極探検に世界各国が共同して学問的研究を始める事になつたが, この様な仕事こそ人類が行うべきものである。世界各国が人類の幸福のために協力して為すべき仕事はたくさんある筈であるが, そんな事を望むのは全く夢であろうか。日本は貧乏国である。然るに軍備に莫大な予算を使う。日本が僅かの軍備を増しても世界状況から見れば何の意味もなからう。軍備は最少限に止めて, 国の予算は国民の幸福や学問研究のために向けられるべきである。国民医療は好むと好まざるとに拘らず社会保険の方向に行く。即ち社会保険は医療上極めて重要な地歩を占める様になる。それだけに医療が学問から離れてはならぬ。医療即ち社会保険は学問と益々密接に結びつく必要がある。研究面を含まない様な現在の社会保険は今後は変革されねばならぬ。そのために金がかかる。そこで軍備に費す金が惜しい。之も夢物語であろうか。

購 読 要 項

1. 発行は隔月 (年6回) とする。
2. 会員は年間料金600円を前納する。1冊料金100円, 払込みは振替口座番号京都4772番泌尿器科紀要編集部, 或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名 (フリガナ), 住所 (雑誌郵送先), 勤務先, 職地位, 自宅開業の別, 送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説, 原著, 臨床報告, その他, 寄稿者は本会々員に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き, 当用漢字, 平仮名, 新仮名使いを用い, 片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表, 附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 年次。
例. 中野: 泌尿器要, 1: 110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し, 之には欧文の標題, 所属機関名, ローマ字著者名を付け, なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円, それ以上の頁, アート頁, 図表, 写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院京都大学病院泌尿器科紀要編集部